

先端を読む

520



中央住宅のルピアコート市川妙典は、東京メトロ東西線の妙典駅と行徳駅が徒歩圏となるマンションだ。

も安く売られるマンションではない。市川市内のマンションだから、それも当然だろう。

「妙典」駅からは、朝の通勤時間帯に上りの始発電車が出る。その本数は朝7時台と8時台に11本。ラッシュ時の混雑が激しい東西線で始発電車を利用できるメリットは大きい。

その妙典駅は、東京駅から14

分圏で、東京駅からの距離感でいえば、世田谷区の二子玉川駅や、杉並区の荻窪駅と同等。そのため、ルピアコート市川妙典

全88戸は70平方メートル超の3LDKが中心。住戸内は、下がり天井が少なくすっきりした室内を実現し、ウォールドアで可変性に富む間取りなどが提案される。ウォークインクローゼットなど収納スペースの多さも特徴だ。

売り主・中央住宅は戸建てで培った「地元密着」「住み心地重視」の企業姿勢を持ち、その姿勢はマンションにも活かされ

すっきり室内、豊富な収納

中央住宅「ルピアコート市川妙典」

ている。

たとえば、大型の食器棚を標準設置し、洗面所のドアは高所に鍵を付ける。それは、ドラム式洗濯機や浴槽などに幼児が入り込むことを防ぐ工夫だ。

LDKの中心にダイニングキッチンを配置して回遊できる間

随所に戸建てのノウハウ

取りを提案しているのも、戸建てからの流れだろう。

今、ハウスメーカーがつくる

戸建てでは、回遊できる家事動線をアピールするケースが多い。それだけ、主婦の関心が高いからだ。

なぜ、主婦は「家事動線」を重視し、「回遊」を喜ぶのか。私

なりに、その理由を考えてみた。

家事は単調な作業の繰り返しである。調理に洗濯、掃除、風呂洗い……毎日同じようなことを繰り返すと、人間は「効率化」に注力するようになる。「おなじ仕事をして、昨日より10分作業時間を短縮できた」翌日は、

マンションの場合、夫婦共働き家庭が多く、専業主婦の割合はハウスメーカーの顧客に多いはず。だから、ハウスメーカーの家は、専業主婦のことをマンションよりも深く考えるのかもしれない。

ルピアコート市川妙典では、ステムキッチンで流しの下にゴミ箱置き場を設け、分別しやす

さうに5分短縮というように、作業時間の短縮が大きなテーマになるわけだ。

そのような「自分との戦い」を繰り返す主婦にとって、家事動線は記録を更新するために大事な要素となり、「回遊できる」ことは新たな可能性を生むアイ

テムとなる……のかな、と。川妙典をみて、そんなことを考えてしまった。